

「ヒマラヤの自然の聖地 その1」 - ブータン東部の女神伝説 -

小林尚礼

ヒマラヤ山脈には、今も昔と変わらずに信仰されている自然の聖地が多い。自然が大きく険しいために、本来の姿のまま存在できるからだ。

ブータン東部のタシガンには、女神の伝説が伝わってその聖地が広がる。

タシガン北東の山岳地帯に住む民族ブクパは、かつてジョモという女性に導かれて、日照の少ないチベット南部のツォナ(またはラルン)からアルナーチャル・プラデーシュ州のタウンを通過して、高山があり緑も豊かなメラック・サクテン地方へ、ヤクとともにやって来た。女性は女神アマ・ジョモとなって、メラック村に近いジョモ・クンカル(ジョモの宮殿)という山に宿った。

ブクパは、女神アマ・ジョモを自分たちの守護神として崇めるようになった。より低地に暮らす民族シャルチョップにもその信仰は伝わり、タシガン県一帯に女神アマ・ジョモに関係する聖地や寺、石や木などが数多く存在する。今もアマ・ジョモが宿するという聖山ジョモ・クンカルに加えて、ジョモの弟(または家来)のダンリンが造ったとされる湖ダンリン・ツォ、ジョモの旅の物語を伝えるユニークな形の石や木、ジョモが建てたという寺、チベットから羊に乗せて運んできた経典、彼女が実際に使ったとされる装身具や帽子、そしてジョモの姿をかたどった像や仏画など……。タシガン中が女神の伝説に彩られているといっても過言ではない。

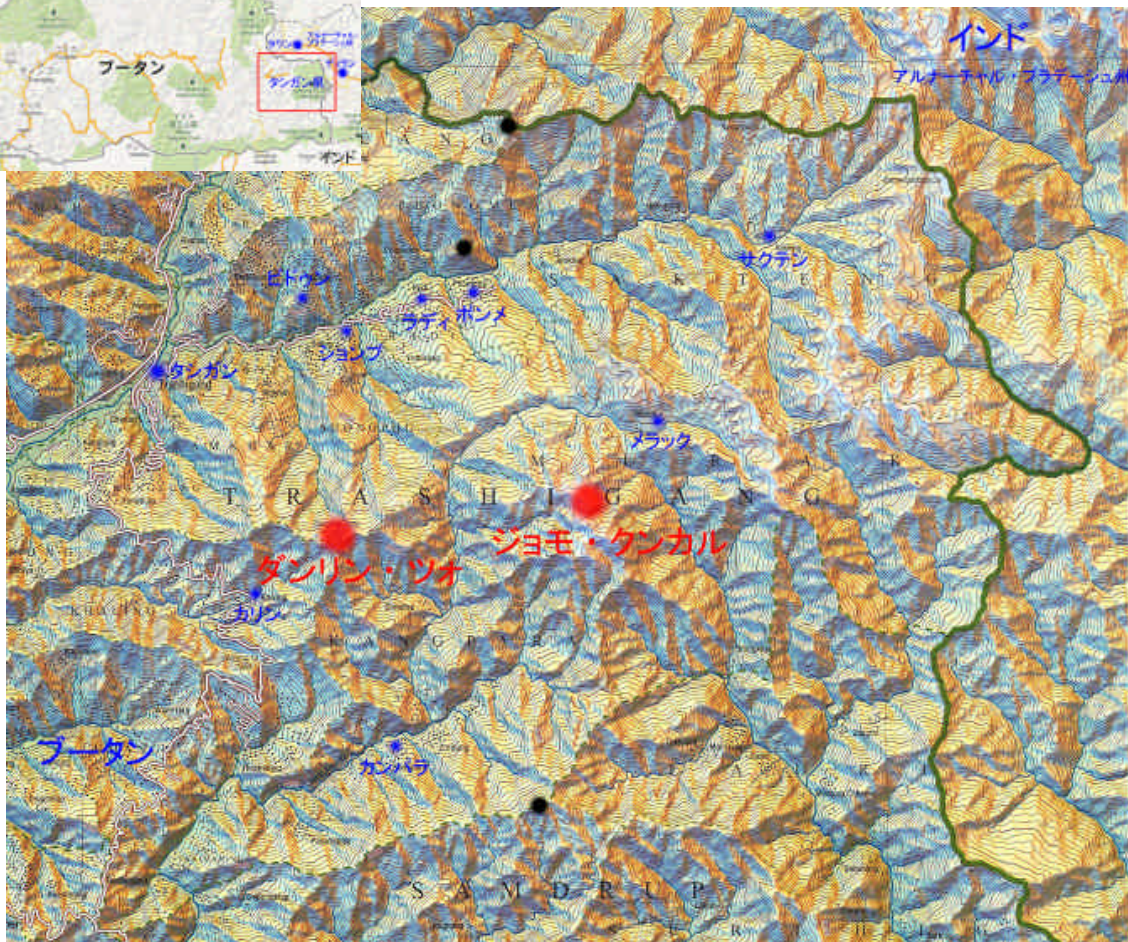
聖地には年に1回特別に参拝する日がある。ジョモ・クンカルは標高4,500mの険しい岩峰で、頂上直下には氷河湖の点在する草原が広がる。まるで高山の楽園のような場所だ。メラック村の人々は、ブータン暦7月15日前後に2泊3日の行程で頂上を参拝する。

ダンリン・ツォは山の稜線近くの樹林に囲まれた場所(標高 3500m)にあり、入る川も出る川もない小さな湖だ。麓のカリン村とその周辺の人々は、ブータン暦4月20日に湖へ上がり、乾季後の干上がった湖畔で雨乞いや豊穰のための儀式(ダンリン・セカ)を行う。6日前の4月14日には、カリン村の寺の近くでジョモとダンリンの仮面や衣服を祀り、2神を迎える儀式(ジョモ・セカ)を行う。その半年後には、2神を送る儀式を行う。

女神アマ・ジョモにまつわる聖地と祭礼について、4回の調査で得た知見を紹介する。



タシガン県の位置 (google map)



タシガン県でのダンリン・ツォとジョモ・クンカルの位置 (ブータン農業省 Department Survey & Land Records(2006) 1:250,000)

ダンリン・ツォ (カリン村上部、2012年6月)



撮影: 小林尚礼

年に一度の参拝の日、枯れたダンリン・ツォへ向かって読経する僧侶



湖水へ祈りのカタ(白い布)を投げる



干上がった湖底へおりて聖水を汲む



ジヨモ(右)とダンリンを迎える儀式「ジヨモ・セカ」
(カリン村)



特別の石の台に載せられた鍋とお神酒
(ジヨモ・ドクツァ) (テルポ) (チャンケ)

ジヨモ・クンカル (メラック村上部、2012年9月)



撮影: 小林尚礼

年に一度の参拝の日、ジヨモ・クンカルへ向かって食物を奉げる人々。手前の湖はジヨモ・ラツォ



山の登り口で体を清める「ツァン・ツァン」



ジヨモを仏教に帰依させた高僧が瞑想した石室
(ロベン・キジェ)



ジヨモ・クンカルの頂上で読経する
(男性だけが上がることを許される)



現存する最古のアマ・ジヨモ像
(ジヨモ・ラツォ湖畔の祠に保管)